

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	一戸町立鳥海小学校 1年生～6年生 27名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（生活，総合及び体育） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックに関心を持たせる。 ○「夢に向かって努力すること」の大切さを子どもたちに指導する。
5 取組内容	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について学んだ</p> <p>①1月31日，ホールにて，全校対象で行った。                  ・全校で1時間，意義や歴史について学んだ。</p>  <p>・マスコットの意義についても触れ，投票のためのビデオを見た。</p> <p>(2) それぞれの教室でマスコットについて話し合い，投票した。                  中学年，高学年では，キャラクターの特徴を捉え，話し合っていた。</p> <p>(3) 大山加奈さんを講師に迎えて，講演会と実技指導をしてもらった。</p> <p>①2月6日，ホールにて，全校児童に加えて保護者や地域の方も参観した。</p>  <p>②講演では，ご自身のバレーボールとの関わりや順風満帆ではな</p>

かったことを話されながら、子どもたちに次のようなことを伝えていただいた。

- 夢は何でも全力でがんばる人にチャンスを与える。
- 夢を叶えるのにふさわしい人になれるかどうかが大事。
- 周りの人が応援したくなる人になれるようにしてほしい。
- これから壁にぶつかることがあったら、周りの人に相談してほしい。
- 人は、「誰かのために」と思った時に、力が出せる。勇気が湧いてくる。
- 仲間は一人にしないで、声をかけてほしい。
- 夢とか目標に向かって努力してほしい。そうすればたくさんの宝物が手に入る。それに、もし叶わなかったとしても、そうやってがんばったことが、みんなの力になる。
- みんなは、今、なんにでもなれる可能性を持っている。

③その後、体育館での実技指導をしていただいた。

- 集団遊びとしての、「手つなぎだるまさんがころんだ」から始まり、二人組でのボール遊び、アンダーハンドでのレシーブと進んでいった。



- 最後に、大山加奈さんがボールを床に向かってアタックすると、天井付近までボールが跳ね上がり、子どもたちからどよめきがあがった。

- 最後はみんなで記念撮影をした。



## 6 主な成果

- (1) オリンピック・パラリンピックについての関心が高まった。
- (2) 直接、オリンピックに出会うことができたことは得難い経験となった。

	<p>(3) 夢を叶えた人の話を聞くことで、子どもたちの心に希望と努力の灯をともすことができた。</p> <p>(4) オリンピック選手（大山加奈さん）の能力の高さの一片を知ることができた。</p> <p>(5) 夢を叶えるには、努力することはもちろん、挫折を経験してもそれを乗り越えることの大事さを学ぶことができた。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>○鳥海地区出身で、JOC 委員長をはじめとして、多くの役職を歴任し、日本のオリンピックの育ての親であり、スポーツを通じて世界平和に貢献した柴田勝治を取り上げ、本事業が彼の意志を引き継ぐことであることの価値付けを図った。</p> <p>○全校児童27名の小規模校なので、1年生から6年生まで全員で一緒に講演を聞き、実技指導も受けることができた。</p>
8主な課題等	<p>○1コマの授業で終わらせるのではなく、これを継続することが大切だと思われる。幸いにも、平昌冬季オリンピック・パラリンピックがすぐ開幕するので、その様子を掲示したり、学級で話題として取り上げたりすることで、つながっていくと思われる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>(1) 「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し、競技の紹介や日本人選手の紹介をすることで、オリンピック・パラリンピックを身近なものとしてとらえることができるようにする。</p> <p>(2) 来年行われるラグビーワールドカップ会場の一つが岩手県釜石市になっているので、それを取り上げながら、「他国の文化」の理解につなげていく。</p> <p>(3) 可能であれば、「おもてなしの心」を学ぶための講座を開きたい。</p>